

令和6年度 麻生区市民提案型協働事業 事業報告会 議事要旨

- 1 開催日時 令和7年3月17日（月）14時00分～15時40分
- 2 開催場所 麻生区役所4階第1会議室
- 3 出席者 [委員] 小倉委員長、本間委員、小林委員、俵委員、岸委員
[事務局] 田島課長、森下課長補佐、市川担当係長、川久保、高木
- 4 傍聴者 0人
- 5 議 事

【団体からの発表・質疑応答】

①あさおホップ実行委員会 【所管課：企画課】

【講評・主な質疑応答】

（委員）

3年前に始めた時は、不安の方が大きかったが、着実に進んできており、醸造所やレストランもできたので、今後はそこを拠点に広げていけるようになったということは良かったと思う。今後は地域の他の団体と交流して、自分たちの活動を発信する場所を増やしてほしい。区や麻生市民交流館やまゆり、かわさき市民活動センターなども活用して、情報発信をしていった方がいい。

遠くて活動に参加はできないけれど、活動を応援したい人が資金的な援助という形で参加できるサポーター制度のようなものも考えてほしい。

活動の記録映像を作成することで、実際にホップを見せることはできなくても、活動を知ってもらうことができるようになると思う。

（委員）

行政の支援を活用して、自分たちのやりたいことが達成できて、最終的に独立できるというのは素晴らしいことなので、今後チャレンジする方に向けて、具体的な数値（作付面積や収益等）をもう少し示してくれると、次の人にもつながっていくと思う。

緑化であれば、通常ゴーヤであり、なぜホップなのかという意味を発信してほしい。ホップの製造者の方が高齢化で、ホップの収穫が難しくなっているといった社会情勢等も発信してほしい。

（委員）

麻生区らしい良いテーマだったと思う。今後も公共施設でホップのグリーンカーテンを広めていけると、ホップの魅力も評価されていくと思う。育成の課題については、メンバーと連携し、協力しながら、広げてほしい。

多世代交流として、福祉も絡めていってほしい。広報の支援はできるので、声かけてほしい。

(委員)

市民活動団体の中では、このホップの活動のことをよく聞いたが、地元企業等ではまだ名前が知られていないようにも思う。もっと企業との展開を検討してみてもどうか。またメンバーの中で主体的にネットワークを広げようと動き出す人がどれくらいいたのか。そのような動きがあったのであれば教えてほしい。

(委員)

ホップを通じて、一般の参加者や団体とのつながりが生まれた3年間だったと思う。今までのことを糧に、次年度以降も頑張ってもらいたい。市民提案型協働事業からは卒業し、関わり方は変わるが、麻生区ソーシャルデザインセンターなどとも連携しながら、引き続き支援していきたいと思う。

(提案団体)

団体のメンバーが栽培したホップも入れてビールにし、緑化フェアの生田緑地会場などさまざまな場所で麻生区産ビールを販売した。あさおホップ実行委員会とペコラビールの活動が交わることで、より多くの人に活動を知ってもらえるきっかけとなった。

【団体からの発表・質疑応答】

②明治大学学生農場 【所管課：企画課】

【講評・主な質疑応答】

(委員)

参加人数が少なく残念との報告もあったが、1年目としては合格だったと思う。実施を通して様々な課題も見つかったと思うので、それを活かしてより良いものを次年度実施してほしい。広報も学校だけでなく、こども文化センターなどさまざまな場所で行うことで、より多くの子どもたちが集まると思うので、次年度以降やってほしい。

(委員)

予算をやりくりして、無駄な費用を使わないのは素晴らしいことだが、的確に支出することも大事。ボランティアは無償奉仕ではない。必要な経費はしっかり使って、結果を出すことも大事。

「農業を身近に感じてもらうこと」「農業を通じた交流」だけでなく、農学部の子として、日本の自給率の低さなど農業が直面しているさまざまな問題に少しずつ触れて、子ども

たちや一般市民に啓発することもぜひやってほしい。

(委員)

子どもたちに農業の大切さをアピールして行ってほしい。また高齢者も交えた交流の取組として農福連携なども考えて行ってほしい。

(委員)

広報の件は支援できることもあるので、ぜひ相談してほしい。

実施回数が的確だったのかは今後の課題だと思う。

(委員)

計画の段階よりも回数を増やして、充実してくれたことは良かった。確かに参加者数は当初の予定より少なかったが、近隣にお住まいの参加者が多かったことから、連続で参加できた参加者も多く、回数を重ねることで、身近に農業を感じることができ、子どもたちもいろんなことを学ぶことができたと思う。

この事業を通して、地域の方と関わったことで、学生側にも学びとなったことはあったのか。

(提案団体)

いただいた御意見を参考に、広報の仕方を検討していきたい。また専門的な知識を子どもたちが興味を持ちやすいようにして、伝えていきたいと思う。

学生主体で初めてやったので、計画・広報から、子どもたちに教えるのもすべてが学びであった。子どもたちに教えるには、自分たちが深く理解する必要があり、一層学びを深めることができた。

NPO法人を3月中に設立予定なので、次年度はNPO法人として、麻生区と連携していきたい。

【団体からの発表・質疑応答】

③特定非営利活動法人岡上アグリ・リゾート 【所管課：企画課】

【講評・主な質疑応答】

(委員)

行政が大学をつなげて事業を行うのは難しいが、NPO法人が軸になって、一つのテーマで大学をつなげていくというのはとても良い企画だったと思う。

写真集については、場所やコメントなど写真の下に記載があった方が親しみやすかったと思う。

(委員)

大学同士がほとんどつながりのないことは課題だと感じている。麻生区が応援して、地元のNPO法人が音頭をとって、連携するというのは新たな取組であったと思う。さらなる発展を期待している。

(委員)

ここまで調整したのは素晴らしいと思う。農福連携なども入れていて、幅広い伸びしろがあると思うので、続けていってほしい。

(委員)

見せ方、巻き込み方が上手だと感じた。研究成果を大学でどのように発表しているのかが気になった。

ソーシャルデザインセンターとしては、この活動のノウハウをどのように区内の多くの方に共有し、市民活動の発展につなげていくかを考えていかななくてはならないと感じた。

(委員)

いろんな切り口から大学生の力を活用して、さまざまな事業をやっていて、内容も充実しており、評価できる。本事業を参考にし、私たちも大学を巻き込んで、地域課題の解決や麻生区の魅力を効果的に発信していきたいと思う。

(提案団体)

大学間の調整が本当に大変だった。

アルコールが飲めない人もいる中、テーマがワインで良かったのかというのは課題ではあったが、ワインだったからこれだけの人が集まったというのもあると思う。既に学生から、次年度にやりたいことが積極的に挙がっており、嬉しいことである。次年度も、学生の声を反映しながら、引き続き魅力の発信をしていきたい。

【団体からの発表・質疑応答】

④一般社団法人 Miraiall かわさき 【所管課：地域ケア推進課】

【講評・主な質疑応答】

(委員)

初年度は総花的に事業をしていたが、次年度は内容に応じて、広報の仕方を変えていってほしい。印刷経費がかかりすぎているので、活動を持続させるためにも、どうやったら抑えられるのかを調整していってほしい。

(委員)

健康な人に「健康」を考えてもらうのはとても大切だと思う。「医療のエコ」というテーマは、医療に無駄がなくなること、届くべき人に届くということだと思うので、引き続き啓蒙していったほしい。

小学生から高齢者までが話し合えるような世代間交流もできると良い。また厚生労働省にかけあって予算を取ってくるぐらいでもいいのではないかと思った。

(委員)

麻生区は長寿日本一なので、健康をテーマとした取組はとても大事である。あさお福祉まつりなどで連携できる部分があると思った。1団体として、健康をテーマとしたブースを出展することも考えられる。ぜひ協力していきたい。

(委員)

今回、データをしっかりとっているので、今後フィードバックがでてくるのを期待している。事業目的を見ると、今年は総花的にやらざるを得ない部分もあったと思うが、核を見つけて、数年かけていってやっていく事業だと感じた。

(委員)

麻生区が長寿日本一となり、とてもタイムリーな提案であったと考えており、期待通りいろんな事業をしてくれた。素晴らしい取組なので、参加者と提案団体だけでなく、参加者同士や健康に関する活動している他の団体も巻き込みながら、今後は直接的は発信だけでなく、団体の底上げにも力を貸してほしい。

(提案団体)

今回実施してみて、子どもや親子向け、高齢者向けの支援は多いが、40代～55歳の方が健康を考える意識付けができる場がないと気づいた。子育てが落ち着いたころに、更年期があり、まだ社会の理解が少ない部分でもあるので、更年期をテーマに40代～55歳位の方に向けて健康を伝える場を作っていきたいと考えている。

以上